



都市との交流を目指して 黒松内フットパス

チョポシナイコース完成！
フットパスツアーが行われました

photo フットパスコースを歩く参加者

10月2日、町まちづくり推進委員会（旬坂昭・委員長）主催によるイベント「黒松内フットパスを歩こう」が行われ、町内外合わせて約50名が参加しました。

これまで、町まちづくり推進委員、町内フットパスボランティア、エコネットワーク代表の小川巖代表と町外ボランティアの方々が、今年6月から2回にわたりコース整備を進めてきました。

暑さが落ち着き、ウォーキングしやすいこの時期に、残りのコース整備を含めた本町フットパス第一段の歩き初めを行いました。

完成したのは、トワ・ヴェールⅡから、熱郭川沿いを歩き、チョポシナイを経由して、一部通行止めとなっていた町道東

▶みなさんの頑張りで、笹刈もあっという間に終了。



◀わんぱく探検団の子供たちもコースを歩きました。



山公園線を通り、黒松内市街地にいたる「チョポシナイコース」。

参加者は、熱郭川沿いを、川辺の土の崖にあるカワセミ（緑色の翼が美しく空飛ぶ宝石と呼ばれる鳥）の巣、なだらかな山並み、放牧されている乳牛を眺めながら、平坦なコースをのんびりと歩きました。

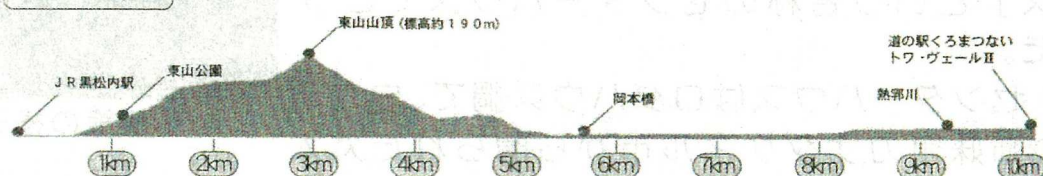
また、通行止めとなり笹やいたどりが背丈以上に生い茂っていた町道東山公園線を整備したコースでは、コクワやヤマブドウが実り、秋の恵みを味わったほか、東山の中腹から見える寿都湾や、東山スキー場からの黒松内市街地の展望を楽しみました。

道内だけでなく、海外のフットパスコースを歩

黒松内フットパス（チョポシナイコース） コースマップ



コース断面



【コースデータ】

コース長：約 10 km
（JR 黒松内駅 道の駅くろまつないトワ・ヴェールⅡ）
標高差：約 190 m
コース概要：熱郭川沿いの道、町道東山公園線を歩くゆるやかな山道など、舗装道路をほとんど通らず、変化に富んだ風景を楽しめるコースです。

黒松内のフットパス

footpath

自然が数多く存在する本町で、スローペースで自然に触れ、地域の人々と触れ合える歩く道「フットパス」をつくり、自然の家などの交流施設や移住者の方が開いている店などを結ぶことで、都市との交流を図ることをねらいとしています。

町企画調整課 担当・小島
TEL 72-3311 (内線44)

お問い合わせ先

来年度もフットパスの整備を進めていきます。「この道がフットパスに使えるよ」という御提案や、「牧場を通ってもいいよ」という方は御連絡ください。

また、コース選定などを行うボランティアも募集中です。興味のある方、是非一緒にフットパスをつくりませんか？

いたことのある札幌の参加者は「黒松内のなだらかな山並みに農地が広がる風景がやさしく感じられ、ゆっくり歩くと気持ちいい」と、黒松内のフットパスコースの魅力を語ります。

また、町内の参加者は「自動車からとは違う風景を見ることができた。コースも変化に富んでいておもしろい」と、我町の魅力を再発見したようです。

フットパス視察 in 根室

フットパスボランティアスタッフ3名が「第3回全道フットパスの集い」に参加しました

9月11、12日の両日、情報収集とネットワーク作りを目的として、根室市で開かれた全道フットパスの集いに本町から3名のフットパスボランティアスタッフが参加しました。

根室では厚床と別当賀という地域で、5人の酪農家が「A B-MOBIT」（エービーモビット）というグループを結成し、フットパスについて先進的な取り組みを行っています。

今回の集いでは、根室のフットパスコースを歩いたほか、本町を含め、道内各地のフットパスに関する取り組みの事例発表が行なわれ、情報を交換しました。



根室半島

厚床・別当賀エリア

AB — MOBIT

根室の酪農家5人で結成したグループ。「AB」は厚床から別当賀エリアを意味し、「MOBIT」は参加メンバーの頭文字を取って名づけられています。

AB-MOBITは、農村と牧場には素晴らしい景観や安らぎの空間があると考え、これを都市の人々と分かち合い、酪農体験や牧場の散策、牛とのふれあいを通じて、農業に対する理解と支援を受けることを狙いとし、根室版フットパスの導入など、新しい試みにチャレンジしています。



宿泊兼体験施設。周辺には市民農園(そば畑)があり、そば打ち等の体験ができる。

視察レポート (要約)

保浦美恵さん

海に見える道を歩く心地良さ、小高い丘を歩くと知床連山、北方領土の国後島が北東の海に浮かび、とにかく広い風景が印象的でした。

青と緑の空気を腹一杯吸ってフットパスを歩いたら誰でも楽しく健康になることを実感しました。



渋谷孝子さん(左)と保浦美恵さん(右)

渋谷孝子さん

各地の事例紹介では、フットパスを気分よくリラックスして歩くと、ストレスが解消され、病気が良くなった例もあると聞きました。

実際に歩いたコースには1kmごとに目印があり、私達を勇気づけてくれました。コースの途中には、酪農家の奥さんが営んでいる休憩所でアイスクリームを食べると、疲れを忘れさせてくれました。また、一部にブナ林に似た所もあって、色々と変化に富んだ牧場を歩くことができました。

新川幸夫さん

交流会では、黒松内の自然を生かしたまちづくりを多くの人達が高く評価していることを知り、大変嬉しく感じました。

今回の集いに参加して黒松内のフットパスづくりにも大変参考になりました。今後町内各地に点在する各施設を結ぶルートづくりとイベントの開催など、息の長い努力が必要だと思いますが、ボランティアスタッフの一員として参加していきたいと思っています。

